

黄体ホルモン製剤による豚の発情同期化

福島県畜産試験場企画管理部
平成17年度畜産試験場成績概要

- 1 部門名 畜産－肉用牛－畜産繁殖
分類コード 07－03－38000000
- 2 担当者 丹治敏夫・本多 巖 大西英高・網中 潤
- 3 要 旨

豚の発情同期化は、受精卵移植技術に限らず、計画的豚生産を行う上で繁殖性向上のため重要な技術である。我々は、緬山羊用C I D R（膣内留置型黄体ホルモン製剤：C I D R－G）を豚に応用することで人為的に発情同期化が可能であることを確認しているが、近年、衛生上の理由によりC I D R－Gの入手が困難となったためその代用品の選定が急務となっている。そこで、入手可能なC I D R－Gの代用品を検討した。代用品として牛用C I D R（C I D R－B）を半分にし更に3分割して束ねシリコンチューブを2次元または3次元的に配置したものを代用品とした。この代用品を豚の性周期に関係なく7日間膣内に留置し、代用品除去時P Gを投与して発情を誘起した。

その結果、発情誘起率は75%で、発情までの平均日数は 8.8 ± 1.3 日であった。このことからC I D R－Bの代用品でも豚の発情同期化が可能と考えられた。また、発情が誘起された2頭の豚に自然交配をおこなったところ2頭とも受胎、分娩した。子豚は13頭及び8頭で繁殖関係も問題はないと考えられた。

4 その他の資料など

本多ら：豚の簡易発情誘起技術（2003）平成15年度「参考となる成果」